

日本橋における観光事業による地域活性化の試み

——「人形町観光めぐりコース」と「舟めぐり・日本橋川コース」の事例から——

塩月亮子

A Study on an attempt of the regional activation with the sight-seeing business in Nihonbashi: Through the examples of a sight-seeing tour in Ningyo-cho and a boat tour in the Nihonbashi river

Ryoko SHIOTSUKI

要旨：本稿では、日本橋の観光ツアーによる地域活性化の動きに着目し、その経緯と現在の活動、および今後の展開計画について調査・分析した。その結果、現在はNPO法人東京中央ネット（日本橋美人推進協議会）が主催する「江戸日本橋観光めぐり」の一環としての「人形町観光めぐりコース」や、同じくNPO法人東京中央ネット（江戸再発見コンソーシアム）主催の「舟めぐり・日本橋川コース」が実施されていることが明らかとなった。江戸再発見コンソーシアム構想の対象地域は日本橋を含む中央区、千代田区、港区であり、本構想の主要な部分はこの地域にある隅田川・神田川・日本橋川・芝浦運河など、水辺の環境の活用である。「水」資源に付加価値をつけて観光事業に組み込む構想は、東京の環境保全や伝統文化の保存、あるいは新たな文化創造による地域活性化に繋がると予想される。その際、区民をはじめ地元企業やその勤務者、各種団体等が相互に連携・協力していくことがますます必要となることを指摘した。

キーワード：観光・地域活性化・町めぐり・舟めぐり・水資源

はじめに

最近、日本橋の地域活性化事業の一環として、観光ツアーが頻繁に催されるようになった。ツアーの主催者は、日本橋を愛する個人や有志、民間旅行会社⁽¹⁾、市民団体など様々である。本稿では、なかでも公益的な性格をもち、日本橋の地域活性化に長年携わってきた「NPO法人東京中央ネット」（理事長 山本徳治郎（株）山本海苔店代表取締役社長）による日本橋観光事業に焦点を当て、現在の活動とその経緯、今後の展開計画について論じていきたい。

日本橋地域はいうまでもなく江戸時代からの文化・経済等の中心地であり、明治44（1911）年に建造された石造アーチ型の日本橋の中央には日本国道路元標があることでも有名である。しかし、昭和50（1975）年代には大企業の本社機能の転出が起り、平成10（1998）年以降には、兜町の証券取引所の場立ちが廃止され⁽²⁾、バブル経済の崩壊や金融再編などの流れにより日本銀行周辺から地方銀行などの金融機関が消えていき、売上不振から東急百貨店日本橋店が撤退するなど、一時は地盤沈下がささやかれるようになっていた⁽³⁾。

しかし、現在は東急百貨店日本橋店の跡地にCOREDO日本橋ができ、巨大な日本橋三井タワーも建設された。それらと並行するように各種イベントも盛んになり、日本橋三越界隈をはじめ、人形町などでも平日から散策する人々で賑わっている。このような変化はどのように生まれたのだろうか。それを明らかにするため、まずは最近の日本橋観光ツアーの出現に至る地域活性化活動の経緯を、以下に簡単に紹介する。

1. 日本橋地域活性化の流れ

『日本橋トポグラフィ事典』（日本橋トポグラフィ編集委員会編）によれば、既に3、40年ほど前から、地域興しの

ために地元企業が立ち上がり、道に花を植え、橋を洗う会を作り、無料循環バスを走らせるなどしてきた。例えば「名橋『日本橋』保存会」は昭和43（1968）年、「名橋日本橋を永く将来にとどめることによって、地域社会の発展をはかること」を目的に、日本橋周辺の企業や町会、有志により結成された。この会は、日本橋を洗う「橋洗い」や「全国子ども橋サミット」を主催し、箱根駅伝誘致にも中心的役割を担ってきた。また、日本橋上空の高速道路の撤去へ向けての活動も早くから行ってきた。

さらに、平成11（1999）年には日本橋全地域の企業や町会により、「日本橋がかつてのにぎわいを取り戻し、豊かで潤いのあるまちに蘇ることを願」い、「日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会」が結成された⁽⁴⁾。その中の一部会として「日本橋 OL クラブ」も組織され、地域で働く女性たちがまちづくりに参加する機会を得た。その部会長であり、NPO 法人東京中央ネット専務理事の山田晃子氏の提唱で、平成17（2005）年にはNPO 法人東京中央ネットの中に「日本橋美人“*Japan Beauty from Edo-Tokyo*”プロジェクト」が立ち上げられた。その後、当プロジェクトは山田晃子氏をプロデューサーとして「日本橋美人推進協議会」へと発展し、今では約40種類以上の「日本橋美人ブランド」の商品を開発するなど、地域活性化に関する多様な取り組みを行っている⁽⁵⁾。

ここではまず、日本橋美人推進協議会による「江戸日本橋観光めぐり」というツアーについて、その経緯をみていきたい。

2. 「江戸日本橋観光めぐり」の活動経緯

平成19（2007）年8月、日本橋美人推進協議会の事業のひとつである「江戸日本橋観光めぐり」の事務局が、（株）建設技術研究所⁽⁶⁾内に設置された。NPO 法人東京中央ネットの「江戸日本橋観光めぐり」に関するホームページには、「魅力ある日本橋の観光めぐりや“心も身体も美しい”日本橋美人ブランドの国内外への発信など様々な活動を行う」とあり、「江戸日本橋観光めぐり」（具体的には「日本橋美人」ブランドを紹介しながら、日本橋に伝わる伝統工芸などの文化や歴史的建築物、あるいは記念碑なども見て回るツアー）のガイド役として、地元企業の勤務者や市民ボランティアを募集していた⁽⁷⁾。

「江戸日本橋観光めぐり」でこれまでに実施され、現在は終了したコースには次の2つがある⁽⁸⁾。まず、(1)「江戸日本橋観光めぐりコース」と、(2)「浮世絵観光めぐりコース」である。また、以前も行われ、現在も実施中のコースには、(3)「人形町観光めぐりコース」がある。最初に実施されたのは(1)であり、実施日は平成19（2007）年11月から平成20（2008）年9月にかけての第3・第4火曜日の計21回、コース内容は、①三井タワー1階ロビー集合、②千疋屋総本店、③山本海苔店、④日本橋、⑤榮太樓總本舗、⑥日本銀行、⑦常盤橋門跡、⑧貨幣博物館の順だった。募集定員は10名で、最小催行人員は1名、午前9：45から12：15までで雨天決行、参加費は無料（保険料として100円は負担）、アンケート記入が依頼されるというものだった。

このツアーの参加者によるアンケートの結果は、インターネット上に公開されている⁽⁹⁾。それをみると、非常に好評で、地元の人と触れあえたことなどにも高い評価を与え、今後はより多くの文化財めぐりや日本橋川めぐりなどを行うことを希望している。

次に、(3)の人形町観光めぐりが平成20（2008）年6月から9月の第2・第3木曜日の午前10：00から12：00にかけて行われた。これは、同年12月から平成21（2009）年3月にも再開されたので、後で詳しく述べることとする。

続いて、平成20（2008）年の10月24日から11月9日まで開催された「日本橋美人博覧会」会期中の特別コースとして、(2)の「浮世絵観光コース」が実施された。「日本橋美人博覧会」の開催趣旨は、ホームページによると「『日本橋美人ブランド』を支えているのは「優」「粋」「知」「創」の四つの美です。この美をテーマに日本橋を四つのゾーンに分け、店舗や企業、ホテルなどにメイン会場と一般会場を設けて「日本橋美人商品」の紹介を行っております。同時に浮世絵の展示で日本橋を彩り、日本橋が江戸から受け継いできた固有の文化が「日本橋美人“*Japan Beauty from Edo-Tokyo*”」のなかに息づいていることを演出します。」となっており、それに因んだツアーは期間内に各1日のみ行われた⁽¹⁰⁾。ツアーは(a)人形町コース、(b)室町コース、(c)日本橋コース、(d)八重洲コースの4つがあった。

これらはすべて浮世絵を展示している店舗を中心にめぐる2時間程度のコースであり、(a)の人形町コースは、①

ロイヤルパークホテルに集合、②東京エアシテイターミナル、③水天宮、④谷崎潤一郎生誕地、⑤人形町亀井堂の順で回るものだった。(b)の室町コースでは、①三井タワーに集合し、そこを見学、②千疋屋総本店、③山本海苔店、④福德塾、⑤伊場仙をめぐるという順であった。(c)の日本橋コースの内容は、①三井タワーに集合し、そこを見学、②千疋屋総本店、③日本橋、④榮太樓總本舗、⑤COREDO日本橋というものであった。また、(d)の八重洲コースに関しては、①日本橋高島屋に集合し、そこを見学、②日本橋プラザ、③DIC株式会社、④ヤン・ヨーステン記念碑と平和の鐘、⑤八重洲地下街を回るものだった。

なお、(2)の4つのコースおよび(3)の「人形町観光めぐりコース」はすべて参加費無料でガイドが付いたことや、アンケートの記入依頼があったこと、および平日午前中に実施したことなどは、(1)の「江戸日本橋観光めぐりコース」と共通する内容だった。

3. 「人形町観光めぐりコース」

ここで取り上げる「人形町観光めぐりコース」は、平成20(2008)年6月から9月に実施して特に評判の良かったものであり、平成20(2008)年12月から平成21(2009)年3月の間の8回にわたり、再実施されることとなった。筆者は平成21(2009)年2月19日に実際に参加した。その時の体験をもとに、本コースの特徴等を紹介する(地図1参照)。

まず、朝の9:45に①ロイヤルパークの1階ロビーに集合し、続いて地下1階の個室(ロイヤルスコッツというバー)で、資料をもとに、担当者からツアー内容の説明を受けた。参加者は筆者を含め全員で11名、内訳は比較的年配の夫婦2組計4名、中年の母と娘1組計2名、比較的年配の女友達2名、若い女性1名、写真取材者(ホームページ掲載



人形町観光めぐりコース

- ① ロイヤルパークホテルロビー → ② 水天宮 → ③ 茶の木神社 →
 ④ 谷崎潤一郎・生誕の地 → ⑤ 大観音寺 → ⑥ 岩井つづら店
 → ⑦ ばち英楽器店 → ⑧ 人形町亀井堂 → ⑨ 浜町緑道公園

日本橋美人推進協議会 江戸日本橋観光めぐり事務局 TEL 03-3668-0390
 詳細・申込フォーム <http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi>

地図1 人形町観光めぐり (NO.20.「日本橋都市観光マップ」より)

用) 1名、筆者1名であった。従って、男女比は男性2名対女性9名となった。

今回のツアーのガイド役は日本橋の企業に勤めるOLの方で、この観光めぐりが平成19(2007)年11月から実施され、アンケートで人気があったため、平成20(2008)年6月以降再度実施されたことなどをうかがった。

次に、(株)ロイヤルパークホテルに勤務するOLの方から、会場となっている部屋や「日本橋美人」商品の説明をはじめ、平日は6~7割が外国人客であり、ホテルから「ディスカバー日本橋」を発信していること、それに関連して宿泊客への日本橋の料理店の紹介や、それらお店に対するメニューの英語翻訳サービスの実施、およびその結果として“YOKOSO JAPAN”というバイリンガルメニューの載った地図の作成・店舗への配布や、店主に対する無料英会話教室の開催をしていることなどの説明を受けた(写真1)⁽¹⁾。また、東京中央ネットが企画制作した「日本橋



写真1 ロイヤルパークホテルのスタッフによる説明



写真2 ロイヤルパークホテルにある「日本橋美人」商品



写真3 大観音寺



写真4 岩井つづら店



写真5 ばち英楽器店



写真6 人形町亀井堂

都市観光マップ」を用いて七福神めぐりなどの日本橋観光名所の案内をしていただいたり、日本橋は人力車の発祥の地であることなどもうかがった。

なかでも特に印象深かったのは、ホテル内の日本料理レストランで、芸者さんのお座敷遊びができるという話だった。パンフレットには、「江戸の下町文化『芳町芸者』と楽しむお座敷プラン」とあり、「舞」コースは料理4名分に芸者さん3名（踊り手2名と三味線）、部屋代は19万円、「華」コースは踊り手の芸者さんが1名減って16万円となっている。これには一時隆盛だった芳町芸者衆が窮地にたたさされている今、活躍の場をホテルでも提供し、伝統文化を伝えていこうという意図があるという¹²⁾。

説明後は同じく地下1階にあるホテル内のパン屋（ロイヤルデリカ）、および1階の「日本橋美人」ブランドが置いてあるホテル内のお店を案内していただいた（写真2）。

次は、ホテルのすぐ近くにある②水天宮を参詣し、ガイドの方から由来や歴史を講義していただいた。ここで宮司さんなどお宮の関係者から直接話が聞ければ、ツアーの充実度や満足度がより増したと考えられる。その後、火伏せの神として信仰を集めた③茶の木神社や④谷崎潤一郎生誕の地、⑤大観音寺をガイドさんの解説を聞きながら訪れた（写真3）。大観音寺では、その下に人形町商店街協同組合所があることや、その隣のおいしい食堂のことなどをガイドさんから教えていただいた。

続いて⑥岩井つづら店、⑦ばち英楽器店、⑧人形町亀井堂をめぐった。⑥と⑦はそれぞれつづら作りと三味線作りの職人さんが直接作業場を見学させてくださり、質問を受け付けたり説明をしてくださったりした。例えばつづら店では、刷毛を作る職人が減ったことなどもあり、現在は都内でつづら店は2店舗しか残っていないことや、店主のお母さまが家紋をひとつひとつに入れることなどをうかがった。また、三味線店では芸者衆や歌舞伎との関係を含む三味線の歴史や特徴などに関する詳しい説明を聞くことができた。参加者はみな日本橋の奥深い伝統文化の一部を垣間見たのと同時に、地元の方々とふれあうことができ、非常に満足そうだった。それは、最後に寄った煎餅店でもいえることだった。そこでは人形町の歴史や芳町のこと、瓦煎餅や人形焼きの作り方、技法の難しさなどを教わり、試食もさせていただいた（写真4・5・6）。

最後に浜町緑道の弁慶像のところでアンケートを2種類書き、13:00前に解散した。

4. 江戸東京再発見コンソーシアムの「舟めぐり・日本橋川コース」

昨今、都心を中心にCREWというユニークな観光事業への取り組みが進んでいる。経済産業省のホームページにある広域・総合観光集客サービス支援事業・採択一覧によると、「江戸東京を再発見するための広域集客観光サービス推進事業」を江戸東京再発見コンソーシアムが実施するという¹³⁾。コンソーシアムの代表団体は、先に出てきたNPO法人東京中央ネットであり、(株)建設技術研究所や(株)ロイヤルパークホテルも参画している。

「江戸東京再発見コンソーシアム」は次の7事業を推進している。

- [1] 広域連携を実現する都心水辺舟めぐり事業
- [2] 各地域の特色を活かした江戸東京再発見街めぐり事業
- [3] 江戸野菜の周知拡大のための地盤作り事業
- [4] 伝統工芸を次世代に継承する事業
- [5] 江戸東京観光情報発信
- [6] 江戸東京再発見にかかわるシンポジウムをととした観光集客広報事業
- [7] 人材育成事業

事業内容としては、「都心の豊富な観光資源を活かした街めぐり、江戸野菜を使った食の安全学習・環境教育のための体験プログラムの実施により、国内外からの江戸東京への回遊を促し幅広い客層の集客を図る事業。東京都内の地元住民や国内外の観光客がターゲット。老舗、名店における伝統工芸見学めぐりなど、昔からの文化、経済などを活かした江戸東京再発見街めぐりなどの体験交流プログラムの作成を行う。江戸野菜の周知・拡大を推進しながら、政治・文化・経済・歴史の価値を有する地域に回遊させ幅広い観光集客を図る」とある。

現在、東京江戸再発見コンソーシアムでは、「江戸東京舟めぐりツアー」を実施している。先の「江戸日本橋観光めぐりツアー」と同じく、モニターを募集し、アンケートに回答してもらっていた¹⁴⁾。エコボート（電気ボート）で3区の川や運河をめぐるというコースには、(1) 芝浦運河コースと(2) 日本橋川コースの2種類がある。(1)は平成21（2009）年1月から2月にかけての5日間、11：00から12：00と、13：00から14：00の2便、勝どきマリーナと芝浦運河に面するレストラン iju25（イジュトゥエンティファイブ）間を運行した。また、(2)に関しては、同年2月から3月にかけての7日間、10：00から11：30、13：00から14：30の2便（2月中）、あるいはそれに15：00発16：30の第3便を加えたツアー（3月）を勝どきマリーナと常盤橋防災船着場間で実施した。筆者も平成21（2009）年3月5日の10：00発のツアーに参加したので、その報告を下記にまとめる。

①朝9：30に勝どきマリーナに集合し、「特定非営利活動法人 あそんで学ぶ環境と科学倶楽部」の方に、普段行っている都心の水辺でのエコツアーの活動内容や今回のコース、通る川や運河の歴史と変遷、および江戸東京再発見コンソーシアムなどについてお話をうかがう（写真7）¹⁵⁾。

②棧橋でライフジャケットを着用し、ボートに乗船する（写真8）。このボートは電力で動く舟で、走行音も静かで排気ガスもでないため、川を汚さないという。参加者は若い夫婦と子供の3名、年配夫婦1組（2名）、中年夫婦2組（4名）、初老の男性1名の計10名、内訳は男性が6名（子供を含む）と女性4名（筆者を含む）であった。

③10：00過ぎに水門を出、右手に消防艇の方々の訓練、左手に築地を見ながら隅田川をのぼる。

④勝どき橋を過ぎ、右岸に佃屋を見ながら佃大橋をくぐる。ここは以前は佃の渡しがあったということである。また、舟のキャプテンから日比谷入り江をはじめとする江戸時代の川の状態の説明を受ける。

⑤次に中央大橋をくぐる（写真9）。これはフランス人の設計ということで、近くにはフランスから贈られた像や、高層ビル前に造られたフランス広場がある。

⑥永代橋付近でレガッタの練習をする学生を見る。

⑦清洲橋が鉄製の橋である説明や、川べりの高層ビルで下が門のように開いた設計のものは、川風を通すことで涼しくさせ、ヒートアイランド現象を和らげるためのデザインであるといったお話をうかがう。

⑧日本橋川に入っていく。ここからは運河なので、揺れがほとんどなかった。水質調査（写真10）も行い、匂いや濁りがあまりないことを確認する。川鵜やユリカモメを見つつ、江戸時代の帆船の刻印がある湊橋や霊岸橋をくぐる。水門も見る。また、日本橋川は昔、荷降ろし専用の運河だったことや、東京オリンピックで高速道路がかかり、光が水に届かずヘドロが堆積したが、現在はEM菌を入れるなどして浄化に努めているということも学ぶ。

⑨東京証券取引所の横を通過し、江戸橋をくぐり、有名な日本橋を見る（写真11）。水面からのデザインがなされていることや、関東大震災でも石造りで残ったこと、その時の火事や戦争時の米軍による機銃の跡があることなどの



写真7 舟めぐりのルート説明



写真8 エコボートに乗船



写真9 中央大橋



写真10 水質の説明



写真11 日本橋

説明を受ける。最近造られた川べりのレストランもあった。

⑩江戸時代の乱積みといわれる石垣や常盤橋を見た後、日本銀行を臨む常盤橋防災船着場に11:30に到着。アンケートを記入し、解散となる。

参加者のなかには地元出身者もいたが、普段はめったに通らない水路から町を眺めることは、大変新鮮な経験だったようだ。歴史を目で確かめたり、美しい橋を見たり、同じ川を行き交う人々と手を振りあったりしながらの1時間半だった。

おわりに

日本橋の地域活性化を推進するため、最近観光事業が活発になされるようになった。本稿では、そのような状況を踏まえ、日本橋美人推進協議会（NPO 法人東京ネット）による「江戸日本橋観光めぐり」および「江戸再発見コンソーシアム」といった日本橋観光事業に焦点を当て、現在の活動とその経緯、および今後の展開計画について論じた。

それをまとめると、既に3、40年ほど前から、地域興しのために地元企業が立ち上がり、道に花を植え、歩道を整備し、橋を洗う会を作ったり、無料循環バスを走らせてきた。平成11（1999）年には、日本橋全地域の企業や町会により「日本橋がかつてのにぎわいを取り戻し、豊かで潤いのあるまちに蘇ることを願」い、「日本橋地域ネットワーク100年計画委員会」が結成された。その中の一部会として「日本橋 OL クラブ」も組織され、その部長であり、NPO 法人東京中央ネット専務理事の山田晃子氏の提唱により平成17（2005）年にはNPO 法人東京中央ネットの中に「日本橋美人“Japan Beauty from Edo-Tokyo”プロジェクト」が立ち上げられ、その後それは「日本橋美人推進協議会」へと発展した。

当協議会の事業のひとつには「江戸日本橋観光めぐり」があり、「日本橋美人」ブランドの紹介や、日本橋に伝わる伝統工芸などの文化や歴史的建築物、記念碑などを見て回るツアーを行っている。これまでに実施され、現在は終了したコースには、次の2つがある。まず、(1) 江戸日本橋観光めぐりコースと、(2) 浮世絵観光めぐりコースである。また、以前も行われ、現在も実施中のコースには、(3) 人形町観光めぐりコースがある。筆者は、自らが体験した「人形町観光めぐりコース」ツアーについて紹介し、地元の方々とふれあいができる点が、ツアーの魅力を生み出す重要な要素となることを指摘した。

次に、平成21(2009)年2月から実施されている「舟めぐり・日本橋川コース」を取り上げた。この構想は、対象地域をこれまでの日本橋から、日本橋地域を含む中央区、千代田区、港区に広げ、より広範囲での地域活性化を目指すもので、7つの事業概要が挙げられている。その主要な部分はこの地域にある隅田川・神田川・日本橋川・芝浦運河など、水のある環境や舟運の歴史などの活用であった。

「水」資源に付加価値をつけて観光事業に組み込む構想は、環境保全にもつながる大変ユニークなアイデアである。今回の調査によれば、水利権や技術的な問題から舟の定時運行は難しいということだが⁽⁶⁾、江戸東京の再活性化や環境保全、伝統の保持や新たな文化創造を、観光と関連させた東京の河川や運河の活用を通して実現させていくことは、エコロジックな観点からも、非常に望ましいといえる。その際、区民をはじめ地元企業やその勤務者、各種団体等が相互に連携・協力していくことが、今後ますます必要となってくるだろう。

謝 辞

本稿作成にあたり、「人形町観光めぐり」では国土文化研究所の和田奈津代氏、宮加奈子氏、ロイヤルパークホテルの岩本千夏氏に大変お世話になりました。ここに感謝いたします。また、「人形町観光めぐり」でお話くださった岩井つづら店の岩井良一氏、ばち英の小林英二郎氏、人形町亀井堂の佐々木橋一氏にも、心から感謝いたします。日本橋川の舟めぐりでは、「遊んで学ぶ環境と科学倶楽部」の平山尚理事をはじめとするスタッフの方々や、国土文化研究所の山内麻里絵氏にも、大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。また、双方のツアーに関し、国土文化研究所の今西由美氏にも多大なご助力を賜りましたことを、深謝いたします。さらに、以前「日本橋 OL クラブ」の会合にお誘いいただき、東京中央ネットの活動内容をはじめ、様々なご教示をいただきました NPO 法人東京中央ネット専務理事の山田見子氏をはじめとする東京中央ネットの方々にも、多大な感謝の意を表します。

なお、本稿は各関係団体に対し確認・許可作業を行ったため、活字化に時間がかかったことをお詫びいたします。平成22(2010)年から平成23(2011)年にかけても、日本橋を含むより広範囲で多彩なツアーが、本稿で取り上げた団体をはじめとする各種団体により次々と企画・実施されており、観光を梃子にした活発な地域活性化の動きに引き続き留意していく所存です。

注

- (1) 例えば、JAL TOURS は「JAL 東京ストーリー」というツアーのなかで、2008年4月1日から9月30日までの期間、「ガイド付 江戸日本橋観光めぐり」と称するオプションツアーを実施した。このツアーの開催回数は11回、募集定員は10名で、日本橋や日本銀行、老舗店などをめぐる内容（「日本橋観光めぐり」事務局の「江戸日本橋観光めぐりコース」とほぼ一緒の内容）だった。
- (2) 平成11(1999)年4月に廃止。
- (3) 矢田美英「日本橋ルネッサンス」日本橋トポグラフィ事典編集委員会編『日本橋トポグラフィ事典 [本編]』pp.615-616、たる出版2007年参照。
- (4) 同掲書 pp.620-621 参照。
- (5) 他にも、「日本橋倶楽部」や「中央区文化財サポーター」など、日本橋で地域活性化を促すため活動する団体は多数ある。
- (6) 国土文化研究所によるこれまでの日本橋地域支援の活動には、他にも次のようなものが挙げられる。平成17(2005)年2月～平成19(2007)年2月までの「美しい景観を創る会」活動支援、および「名橋「日本橋」保存会」や「日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会」、「日本橋 OL クラブ」、「日本橋美人博覧会」、「日本橋再生推進協議会」、「江戸開府400周年記念」事業などへの支援・協力等。
<http://www.ctie.co.jp/kokubunken2/04contents/meguri.html> (アクセス日: 2009.2.20) 参照。
- (7) 「日本橋美人」を基本コンセプトとしたこのツアーは、日本橋にみられる「粋・知・優・創」の伝統、すなわち「粋」は神田祭をはじめとする祭り、「知」は日本国道路元標や日本橋魚河岸記念碑、日本銀行貨幣博物館のような名所、「優」は山本海苔店や日本橋高島屋、榮太樓總本舗などの老舗、「創」は岩井つづら店や江戸屋などでみられる伝統工芸の要素を組み入れたかたちとなっている。
<http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/whats.html> (アクセス日: 2009.2.20) 参照。
- (8) <http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/course.html> (アクセス日: 2009.2.20)、
http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/course_ukiyo2.html (アクセス日: 2009.2.20)、
http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/course_ukiyo3.html (アクセス日: 2009.2.20)、
http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/course_ukiyo4.html (アクセス日: 2009.2.20)
- (9) <http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/koe.html> (アクセス日: 2009.2.20)

- (10) 「浮世絵で彩る日本橋」というテーマのもとで行われたこの博覧会は、会場は特に借りず、現在ある商店を日本橋美人ブランドが提唱する「優一洗練された仕草」、「粋一江戸っ子の美意識」、「知一先人からの叡智」、「創一伝統が培った技」という4つの美にゾーニングし、そのテーマに合った浮世絵を展示するというやり方だった。<http://www.tokyochuo.net/bjinhaku/>（アクセス日：2009.2.20）参照。
- (11) 写真1～写真6は、すべて平成21（2009）年2月19日に筆者が撮影したもの。
- (12) 日本橋芳町における芸者衆の歴史・文化に関しては、塩月2008参照。
- (13) <http://www.meti.go.jp/press/20080604002/20080604002.html>（アクセス日：2009.2.20）
- (14) <http://www.edo-tokyo.info/>（アクセス日：2009.2.20）
- (15) 写真7～写真11は、すべて平成21（2009）年3月5日に筆者が撮影したもの。
- (16) 平成21（2009）年2月20日に行った国土文化研究所 企画室へのインタビューによる。

参考文献・サイト

- 江戸東京再発見コンソーシアム 「江戸東京再発見コンソーシアム」
<http://www.edo-tokyo.info/>（アクセス日：2009.2.20）
- 経済産業省「平成20年度「広域・総合観光集客サービス支援事業」に係る補助金の交付先の選定について」<http://www.meti.go.jp/press/20080604002/20080604002.html>（アクセス日：2009.3.1）
- 国土文化研究所「地域・社会活動 江戸日本橋観光めぐり事務局の設立（趣意書）平成19年8月」
<http://www.ctie.co.jp/kokubunken2/04contents/meguri.html>（アクセス日：2009.2.2）
- 塩月亮子 2008「花街と景観—日本橋・芳町における芸者衆・職人・河川の変遷をめぐって—」
『日本橋学研究』第1巻第1号、pp.51-62
- 東京中央ネット「江戸日本橋観光めぐり事務局 概要」
<http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/whats.html>（アクセス日：2009.2.20）
- 東京中央ネット「日本橋美人 江戸日本橋観光めぐりコース」
<http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/course.html>（アクセス日：2009.2.20）
- 東京中央ネット「日本橋美人 浮世絵観光めぐりコース（室町コース）」
http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/course_ukiyoe2.html（アクセス日：2009.2.20）
- 東京中央ネット「日本橋美人 浮世絵観光めぐりコース（日本橋コース）」
http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/course_ukiyoe3.html（アクセス日：2009.2.20）
- 東京中央ネット「日本橋美人 浮世絵観光めぐりコース（八重洲コース）」
http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/course_ukiyoe4.html（アクセス日：2009.2.20）
- 東京中央ネット「日本橋美人 浮世絵観光めぐりコース お客さまの声」
<http://www.tokyochuo.net/edo-nihombashi/koe.html>（アクセス日：2009.2.20）
- 東京中央ネット「第2回日本橋美人博覧会」
<http://www.tokyochuo.net/bjinhaku/>（アクセス日：2009.2.20）
- 矢田美英 2007「日本橋ルネッサンス」日本橋トポグラフィ事典編集委員会編
『日本橋トポグラフィ事典 [本編]』pp.615-616、たる出版